

早池峰山

2020.07.30





「えっ、それは是非登って欲しかったなー」と、如何にも残念そうに言わしめたのは「天候と日程の都合で計画していた早池峰山に行けなかったんですよ」と、秋田駒ヶ岳に登る道すがら挨拶を交わした女性、曰く「早池峰山には、ハヤチネウスユキソウなど固有種の花がいくつもありそれを是非見ていただきたかった」と、それでも、秋田駒ヶ岳に来たからには是非ムーミン谷をと途中まで案内してくれた。

あれから一年を経て、今その早池峰山、女神が祭られているという頂き、蛇紋という岩塊の道を歩き、そしてあの時伺ったハヤチネウスユキソウ、ナンブトラオンノオ、ナンブトウウチソウ、他、なじみの花、知らない花々。

ようやくどこかに残っていた、あの残念そうな女性の言葉のモヤモヤが吹っ切れた気がした。





焼石山

2020.07.31



頂上から東北の主な山々が遠望できるとのことだが生憎私たちが登ったこの日はガスで遠望が利かなかった。

中沼と上沼にはトウゲブキの黄色や群青色のヒオウギアヤマメ達が水面を色鮮やかに映していた。

降ってきたパーティーが揃って、長靴の上にスパッツ姿「今の時期は雪解け水に濡れるので、これが一番いいですよ」とは、リーダーのガイドさん、そういえば他にも長靴姿の登山客が多いこと。

山頂を超え焼石神社から東焼石山との鞍部に回り込み、姥石平に至る広大な花畑はガイドブックに記された「東北地方トップクラスの花の山である」ことを、時間がたつのも気にならないほど堪能する事が出来た。









栗駒山

2020.08.01

深田久弥氏は「東北では秋田駒ヶ岳と栗駒山を百名山にいれるべきであったかもしれない」・・・と、ガイドブックで紹介されていた、なるほど、素人の私でもそれは納得と感じた山だった。

私達は往路を中央コース、帰路を東栗駒コースと周回した、下りは渡渉沢下り 200m がある、丁度差し掛かった頃からまさかの激降りとなり、沢を外れた後にも、登山道は沢状にえぐれ集めた豪雨を水路の様相、あまりの降り方にやり過ごすにも、時間がたてば益々増水するばかりの沢も強引に下り、なんとか登山口レストハウスの屋根を見つけホットするも危ういところだった。







神室山

2020.08.02

パノラマコースと謳われるほど見通しの良い尾根コース、東北に来て今初めて「暑いなー」と声に出すほど照らされた、それでもハクサンフウロに囲まれた標識が立つ前神室山からの神室山、ガスで遠望は利かないものの名の通り気持ちの良い山歩きだ。頂きに女性登山者ひとりがコーヒーマイク、金山町から登って来たと、ガスで景色が見えないのと涼しくないのと期待が裏切られたと笑う、登山口から頂上まで誰にも出会わなかったのに、相次いで単独登山者が登ってきて、瞬間、都合6名の頂上となった。往路、西の又コース(1250m 付近)には、国内最大と言われるキヌガサソウ群生地を楽しみに歩いたのですが、残念ながら時期を逸していたようで、それでも他の可憐な花が咲き誇るように咲き目を楽しませてくれました。往路コースもうんざりするほど長い下りコース、それでも中盤にありがたい不動明王の水場、その冷たさと美味しさに「ビールより旨い」と思うひと時。

やがて美しい三十三尋の滝を過ぎ、様々な植生を観察しながら、一瞬足首まで浸かるような渡渉数か所と三つの吊り橋を渡り朝の分岐点へ、そこから林道のアルバイトで駐車地まで下山。











那須岳

2020.08.03

那須岳(なすだけ)という峰はないという、持参の登山地図には、朝日岳、三本槍岳、茶臼岳、に南月山、黒尾谷山を加え、那須五岳と説明されていた



硫黄採掘跡近くに建つ、峰の茶屋跡避難小屋まで広い緩やかな登山道が続く、茶臼岳は後から登るとして、朝日、三本槍方面へ辿る剣が峰の裾を回り込むと、若干緊張の強いられる鎖の付いた痩せ尾根を越え、更に鎖場をトラバースするとミヤマシャジンの群生に迎えられ、水平の尾根にでたところで、朝日岳のピークは縦走路とは逆方向だが折角だからと、山頂からの展望は360度の大展望、北に安達太良山、磐梯山まで望むことができるというのだが、この日もガスにより遠望は望めず。ここは、北アルプスの穂高に似ていることから那須穂高とも言われるようで、正に麓から見上げた私たち、あれが三本槍かと早合点、地図を見返すとどうも位置的に合わない、朝日岳から戻り緩やかな起伏を辿る楽しい雰囲気尾根歩きではアサギマダラの舞う姿が、写真にとったものの飛ぶのが早くカメラを向けたときには姿がなかった、それが茶臼岳で写した集合写真では偶然にも私たちの頭の上に舞っていたとは。

会津駒ヶ岳

2020.08.05

ここも昨年登りそびれた山の一つ、どうしても今回は登りたい山だった、駒の池近くで休憩しながら、ミヤマリンドウ、イワイチョウ、ワタスゲ等々を眺めながら、沢山ある初めて見る黄色に、これなんて花をなんだろう、に、居合わせた登山者からキンコウカというんですよと「どこまでですか？中門岳へ是非行って見て下さい」あそこは「天空の楽園」と、言われるところなのですよと勧められる。





やがて、駒の池では、教えてもらったばかりのキンコウカ、私達もなじみのミヤマリンドウ、チングルマ、ハクサンコザクラの群生はまるで夢の世界が木道に導かれ中門岳へと、宿願の愛児駒ヶ岳はまさに天空の楽園だった。

燧ヶ岳

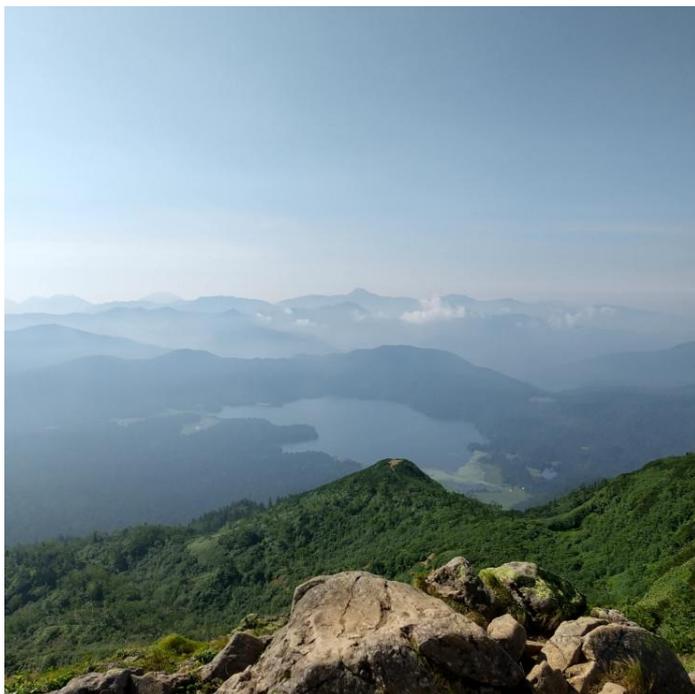
2020.08.06 18:45

登山口からいきなり足がとられそうな湿地と濡れた大岩が連続する急登がうんざりする程続く、やがてそれまでと全く様相を変え、数々の小池(池塘)を配した広沢田代は夢の花園、更に上には熊沢田代湿原がまるで楽園の続きのように木道が続く



やがて傾斜のあるゴロゴロの長い涸沢状を詰めようやく傾斜が落ちたころ三角点のある俎岨ピークにでた。反対側の眼の下には尾瀬沼が、正面には富士山のような綺麗な三角形の山が見える、富士山があんなに近くはないよ4ね一、至仏山はどれだろうと等という私達に、居合わせた登山者のおじさん笑いながら、富士山ではありませんよ、至仏山はあれ、東の至仏、西の燧というの

ですよ、と教えてくれる。360度の展望と紹介されているも、この日もガスに覆われ遠望は利かなかったが、尾瀬という響きだったものが、直に感じ忘れ物を思い出したようで嬉しかった。



越後駒ヶ岳

2020.08.07 19:00



未だ暗い稜線に朝焼け雲が美しい、歩き出して間もなく朝焼け雲からお日様があっという間に顔を出した、足元には雲海かかる奥只見湖が、残念ながら、今朝は滝雲とまで発達していないようだ、遥か彼方に見える雪渓を纏うピークを眺め「あれが越後駒ヶ岳かー遠いなー」と、思わずため息をつく。





途中でピークと見当違いに気づき元気がでる、前駒ヶ岳直下の岩場に近づく頃にはニッコウキスゲの群生に癒され、頂上稜線近くではハクサンコザクラに迎えられ、足元に雪渓を残す頂からは越後三山の、中のノ岳、八海山が望める。

歩行時間、距離も長い行程だったが、全般に見通しの効く尾根筋コースは歩いていて楽しい、東北山巡りのフィナーレに相応しく、また一つ心に刻まれた山旅の一つとなった

東北の山で出会った花達

2020.09.15 17:48

一体どのくらいの花たちと出会ったのだろう、後刻となった今、高山の花辞典を片手にしながらも思い出せないほどの出会いがあった

ミヤマオダマキ、ハヤチネウスユキソウ、タカネナデシコ、ナンブトラノオ、ナンブトウウチソウ、ナンブイヌナズナ、イワカガミ、ツリガネニンジンソウ、ウメバチソウ、ウラジロヨウラク、キンコウカ、コバイケイソウ、クルマユリ、コバギボウシ、サンカヨウ、ミヤマキンポウゲ、ミヤマキンバイ、エゾシオガマ、ハクサンフウロ、ミヤマリンドウ、チングルマ、ハクサンコザクラ、ヒナザクラ、トウゲブキ、

ハクサンシャジン、ヒオウギアヤメ、ミヤマアキノキリンソウ、カラマツソウ、ニッコウキスゲ、モウセンゴケ、ウラジロタデ、エゾニュウ、ハクサンシャクナゲ、サワラン・・・











